

The 11th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加して

岩田 裕子

(日老医誌 2020 ; 57 : 209)

2019年12月19日～21日上海の復旦大学附属華東医院で開催されたIAGG (The International Association of Gerontology and Geriatrics) 主催のMCA (Master Class on Ageing in Asia) に参加させて頂きました。私は2年ほど前に以前から興味を持っていた老年医学の世界に足を踏み入れ、現在臨床の場で勉強の日々です。今回の参加のきっかけは先輩からの勧めでした。英語でのコミュニケーションに自信がなく、研究発表やディスカッションの時間があるプログラムと聞き初めは尻込みしましたが、せっかくの機会だからと挑戦する気持ちで臨みました。

初めての中国、前夜遅くに入国しタクシーでホテルへ、翌日おそるおそるホテルから歩いてすぐの研修会場に入りました。復旦大学のサポートメンバーが出迎えてくれて、美味しい中華弁当でお腹が大満足してからの研修スタート。各国のTutorの先生方による講演は、英語を母国語としない参加者に対し配慮下さっており大変分かりやすく、あっという間に時間が過ぎました。4グループに分かれてのケースディスカッションも素晴らしい経験でした。私たちのグループは、妻が亡くなったあとの記憶障害を主訴に息子に連れられクリニックを受診した80歳男性の症例でした。current conditionの評価、必要な検査、解決策について話し合いました。国ごとに介護に関する保険制度が異なり、例えば広い中国では全土統一のシステムはなく、地域による差が大きいとのことでした。日本の介護保険体制を簡単に紹介すると、羨ましいシステムだと意見があがりました。検査を行い器質的疾患を否定するだけでなく、CGAやフレイル・サルコペニアの評価、メンタル面、家族関係など、医師



として患者を周囲環境を含めて人として診る、老年医学の共通したマインドを持つ仲間だと感じました。今後ともこの世界で精進していきたいと改めて感じる機会となりました。

日中の研修のあとは皆で大移動、第1夜は素敵なレストランで本場の本格的な中国料理、第2夜は遊覧船で上海の夜景を堪能しました(ホテルに帰ったあと最終日の発表準備でルームメイトとともに少し夜更かしして頑張ったのも良い思い出です)。皆様親切で、丁寧にご案内頂き充実した快適な旅路となりました。

今後MCAへの参加を考えておられる方がいらっしゃいましたら、英語が苦手、海外が不安という理由で躊躇されたりせぬようにお伝えしたいです。私自身そうでしたが、参加して本当に良かったです。最後に、このような貴重な機会を与えて下さったIAGG、日本老年医学会関係各位に深く感謝申し上げます。